JAXA の井上理事が資料 17-2 (科学研究の外部評価) を 12 分程で説明し、その後 30 分程の質疑応答があった。(外部評価委員は海外 5 人を含め 13 人の広い専門分野の方で、評価点とコメントを提出するとともに、評価結果を纏めた Executive Summary を作成した。「予算と人員の割に大きな成果を残した」「予算が此の 10 年間増加していない事を危惧する」「ボトムアップアプローチを今後決して欠いてはならない」「JAXA 内の他本部や他グループの持つ能力を活用する戦略を立てるべき」等が書かれている。) (計画部会長として中長期計画策定に際して科学研究のあり方の議論を運営してきた青江委員が、自ら認識する処と外部有識者のコメントの微妙な表現の違いを取り上げ、熱心に質問していた。計画部会で決めた事と整合性のある進め方を行っていると認識された様に感じた。)

青江：あのー、OK 頂きました此れ、一応目を通しました。で、今回の外部評価に於きまして、所謂 ISAS の仕事に対する一番コアの部分、正に学術的な業績ですね、此れについて大変高い評価を得ているという事と云うのは、大変素晴らしい事だと思うんですよね。あのー、其れが一番のメインの仕事ですからね。で、其の上に立ってという事なんですが、まあ、あの、一つのポイントとしまして、所謂お金関連の事って言いましょうか、ずっと予算が増えて居ないじゃないかと云う風な事と、まあ探査センターを作るのは基本的には良い事ですね、しかしながら両方、所謂従来の ISAS、それから新しい探査センター、此れが共にクリティカルマスに達する様なリソースが割り当てられなければなりませんって云う風な事。それから或る人は 3 割と云う数字を上げてますよね。3 割を目途に、言って見ればまあ取っておくとでも言いましょうかですね。サイエンスの分に、ええと、永続的に取っておく、そう云った考え方も有るじゃないかみたいな指摘も有る訳ですね。まあ、斯う云った風な事につきましては、此れはまあ井上さんにお聞きしたら、返って来る答はもう明白に解ってますから、井上さんにはお聞きしません。あの、宇宙開発委員会自身としまして此の辺のお考えですね、此れをキチンと受け止めた上でですね、まあ、毎年のリソースを議論する様な場にキチンと反映して行かなきゃいかん事だと云う風に思って居ります[1]。此れが一つなんですね。其の上でですね、トップダウン[2]の仕組み、大方の人は基本的には大体まあ、健全なメカニズムの下に動いて居ると云うご評価を頂いてると云う風に受け止めてるんですね、あの、私どもも其の様に認識をして居るんですね。今の現状と云

---

[1] 以前、宇宙開発委員会 (確か計画部会) の席上で立川理事長が、「もう少し科学に充てるお金を増やした方が良いと考えている。」と発言した事を覚えて居る。科学や防衛の様な種類の予算は、費用対効果と云う計算では表わしきれない重要性を有する。際限無く使って良いと云う事では決して無いが、許される天井が在って、其れを議論しておく必要があるだろう。青江委員の発言は、「天井は今より少し高い処に有る。」と翻訳出来そうに思う。

[2] 「ボトムアップ」と言いたくて「トップダウン」と言ってしまったようである。

うのは基本的には今のボトムアップのメカニズムと云うのは健全に動いて居ると、あの、課題選定に於きましてですね。斯うした時にですね、ええとどう言うんでしょう、統合後 4 年経って、ややこう、ISAS スタッフの中に戸惑いって云うか、疲れと云うか、そう云ったものが見られる。そのー、トップダウンとボトムアップの一種の混在、併存によって。此処の処の状況が、どうも一寸良くイメージとして分らない[3]処が有りましてね。どう云う事態なのか。で、其れを良い機会だから、こう、チャンと克服をして、まあ整理をして、どう云う方向を指向するべきなのか、其の辺が一寸分らない処が有りましてですね、あのー、若し解説を頂くと大変有り難いなと思って居りますけれども。

JAXA 井上：はい、あのー、先ず、その、ボトムアップで研究者の競争的な環境の中で、ミッションを選んでいると云うプロセスそのものは JAXA になったから大きく変更を迫られてる様な事は無いと思ってます。其の後決めてく処については、あのー、JAXA の中で其の決め方が或る時点でチャンとした評価を頂いて動いてると思います。ただ、元々の宇宙科学研究所の時には、上流の処で、文部科学省の中で科学研究の他のサイエンスと同じ財布の中で、謂わば其の下に私共のそう云うボトムアップのシステムが在って、上の処が一緒に科学の議論で結ばれていたと。其れに対して JAXA の中で他の政策課題と云う様な処から降りて来る事業と、我々の様なボトムアップの、まあ謂わば目的がかなり違うものが JAXA の中でどちらを優先するかと云う様な議論をせざるを得ない状況にある処で、中々苦労があると云う事です。但し、此れあのー、此の間色んな処で見て見ますと、何れにしろ上流に行った処で、例えば総合科学技術会議と云う処で、科学とその他の部分と云う処を見て行く目と云うものは、先ずは明日直ぐに役立つものが大事ですねと云う様な議論、最後はそう云う戦いになる処と云うのは、実はホウジ（？）が縮小された処で我々の処にあるだけで、あのー、上流に行って、もう一寸奇麗なウチワセベイ（？）が流れて来て貰いたいとは思いますけども、結局は研究者がキチッとした科学の価値と云うのを、何処かで確り言ってかないといけないと云う構図は、何れにしろ必要で、JAXA の中でも我々としては精一杯其れをやらなきゃいけないんだとは思っています[4]。其れが一つ目です。

それからもう一つはですね、此れはあの、そもそも三つの

---

[3] 言葉の選択に迷いながらの質問であり、冗長で分り難い。「ISAS が JAXA と NAL と一緒になり、一つの管理体制の中に入り、此れまでの取り組み方と違う部分に戸惑いを感じている様である。此れを改善する為の献策があれば聞きたい。」と云う事の様だ。

[4] 「明日直ぐに役立つものが大事」と云うのは言い過ぎではないか。「科学の価値を確り言っていく」など、日頃努力されている事に全く異論は無いが、宇宙の取り組みそのものも、科学の研究も、日常生活の中で保険の掛金を決めて行く時と同じ様に、適切な比率（天井）を考えて引当てるものではないか。家計が圧迫されると保険の掛金から見直す様な事はあるだろうが、されどその程度の事ではなかろうか。

組織が一緒になった事によって、中央に或る種の管理組織が出来て、そう云う事によって間違いなく忙しくなりました。ただ、此れも隣で国立天文台が自然科学機構と云うものの中に入って、あちらも忙しくなったそうです[5]。で、そう云う種類の JAXA 故に生じた部分ともう一寸一般的に生じた部分とが並列して、今の時期起こった様な処が有って、そして更に何事をやるにも中期計画長期計画を出して、どう云う評価をやって、最後に斯う云う成績評価をして物事を進めますと云う事を言わされる様な世の中になって、其れは良い面と悪い面があると思いますけれども、

青江：其れが疲れですか。

JAXA 井上：其れは何処も皆同じ様にフーフー言っているのが現状で、或る意味で言うと研究者はどの場所に行っても皆フーフー言ってる様な構図が有りますので、何処までが JAXA の特殊なものなのかと云うのは切り分けないといけない処は有ると思います。

青江：そうしますとね、まあ、此のユリア（？）の方のご意見として、どう言うんでしょう、此の問題が所謂トップダウンとボトムアップの意識の、こー、併存のメカニズムと言いましょうかね、其の体制、此れに対して何らかの形でですね、まあ、整理をしなきゃいかんとでも言いましょうかね、何かそう云うご意見でしょう。其れはどう言う方向を指向しなさいって言ってるのかってのが、実は良く分らない[6]って言いましょうかね、どう言う解決の方向が見出せるんだろうかと云う事、其れがまあ、所謂追加的にあれなんですけど、もう一点ですね、一寸此れに関連してなんですけどですね、ある一人（いちにん）のお方ですけどね、まあ言って見ればあのー、今の所謂理工学委員会のあれに対して、選択の際に大原則が無い、憲法が無いと、従って其の選択の結果に対してリライアブルじゃ無いと云う事を仰っておられる方がご一人（いちにん）居らっしゃるんですよね。其れだと困るんですよね、其れは。で、どうも他の方がそうじゃない、そう云ったご指摘が無い[7]様だからですね、我々が従来の認識をして居る通り、基本的なメカニズムは健全さを維持して居ると云う認識を変える必要は無かろうなと云う風には思もっとるんですけど、其れで宜しいんですかとでも言いましょうかね。

JAXA 井上：今、あの、二つの事を仰られたと思うんですけど、あ

---

[5] 管理の為に報告書の提出量が増えるのは、一時的にはどんな合併でも起きる事で、長期的には管理部門の人数比が下がって全体効率が向上するものである。また、合併当初は驚くほど管理部門の作業量は増えるのである。

[6] 問題として取り上げて居る「意見」なるものを見る事が出来ないので、勝手な推測であるが、「何をどんな方向に直せ」と云うご意見では無く、一時的に発生している多忙の原因を「トップダウンとボトムアップの混在」に起因すると想定し、「どうにかしろ」と言っているのではないか。管理状態を改善しようと思うと、やるべき事は幾らでも思いつき、ラインに依頼する作業と管理部署の人数は何処までででも増やす事が起こりうる。

[7] 「憲法が無い」と指摘した人が居て「困る」必要は無いと思う。「他の人がそう云う指摘をしなかった」ことを重視すれば良い。

の、ええと、一つ目の、何か、トップダウンとボトムアップが共存した時に、其れをじゃあどうやって整理して行くかと云う、

青江：組織としてどう、何か整理をして行くのかと。

JAXA 井上：事ですけれども、まああの、或る種評価軸が違う二つのものを、どちらを優先するかと云う事を議論に上って行った時に、矢張り此れはどうしても明日此れを何かしとかなきゃいけないって云う事がこっちにあって、で、限られた予算の中で、先ず此れを済まさないと先へ行けないんだと云う言い方で科学の予算の方に皺寄せが来ることがどうしても現実に起こっています。ですが、此れに対しては矢張り、あの、其処については科学の尺度で取りくま。それとまあ、二番目に仰った様な憲法ムニャムニャ。どう云う尺度で此れをチャンと評価するって事で、其処についてはそう云う考え方で予算を付けるなり、リソースを掛けると云う事を判断して頂くって云う事にしておかないと、或るパイをゼロサムで判断されてしまうと、どうしても明日直ぐ役に立つと云う事にウェートが移ってしまう、で、其処ん処はもう一寸上の段階で、其処ん処については、あの、別のあれ[8]を入れて頂かないと、どうしても限界があると云う風な気がして居ります。で、2 番目の「憲法」って仰る処、此れはあのー、我々としては兎に角世界第一線の、誰からも「此れは第一級のものだ」と言われる事が憲法だと思う[9]んですけれども、其れをどう云う格好で見せて行くかと云う事は、今の中では未だ不十分だと思っています。あの、理学委員会・光学委員会って云うのはまあ、非常に厳しい議論をやった結果で選んでますけれども、其れをもう一つ何等かの格好で後ろ側に、もう一寸広い、高い、或いは宇宙科学だけに限らない研究者の方からもチャンと評価頂くようなものは、もう一つ居るなと云うのは、私、思ってる処で、この次の第 3 期に向けては其処が一つの大きな課題だと思っています。

森尾：ええと、あの、6 頁[10]の評価結果の一覧表ですが、評価する先生方 13 名居られて、枠は 12 名しかないんですが、どなたか一名評価されなかったんですか。

JAXA 井上：ええと、あの、此れ済みません、12 になってますね確かに此れ。一寸入っていないのが、今、パッと中味をチャンと答えられないんですけども、ただ、あのー、委員の方々には点を付けて来られずに、コメントだけ頂いた方が有って、多分其処が此れには入れなかったんではないかと思います。上に「評価の視点」と云う処に、「評価または意見」と、此れがあんまり、我々として一寸言い方が徹底して無か

---

8 具体的なイメージを持たれていないのか。先にもコメントしたように、保険の掛け金の様なものと考える必要がある。日本の防衛費に天井を設定した様に、宇宙開発費や研究開発費には確たる計算根拠もないが、何となく納得出来る水準を設定する事が出来るのである。其れを総合科学技術会議か宇宙開発委員会が行えば良く、要すれば国会で審議して頂けば良い。

9 此れで充分だと思う。

10 一覧表の事。

ったなと後で反省した点ですけども、あの、点を付けずに意見だけ言って下さった方が居られました。

森尾：参考資料の方の要約のとこなんですけども、先ず全体評価でですね、非常に良い評価をして頂いて、私もムニャムニャですけども、其の一番目の全体評価の分と、何となく、多少矛盾を感じる[11]んですね。此れだけの少ない人数と予算で非常に良くやったと云う評価をしてる一方で、もっと増大しなくてはいけないと云うのは何故なのかと。あの、そりゃ、予算は多ければ多い方が良いんでしょうが、恐らく斯う云う研究って云うのは、評価そのものは非常に難しいと思うんですけど、投入したリソースに対するアウトプットって云うものが若し測れるとすればですね、投入するリソースが余りにも少ないと十分な評価が、アウトプットが出ないと云う意味で、効率は落ちると。それから逆に物凄く、幾らでもリソース掛けると言っちゃうと、効率は逆に落ちてくって云う処があって、どの辺かにオプティマムポイントが在ると思うんですね。だから評価された先生方は、現状は大体少ない予算で良くやってて此れは非常に効率的に考えたら非常に良いポイントだと云う事なのか、もっとリソースを注ぎ込んでも効率は落ちないからもっと注ぎ込めと云うご意見なのか、どっちかなーと云う風に、読みながら考えてたんですが、そっちなんですか。

JAXA 井上：あの、此れは評価委員会の方の方で書いて頂いた事なので、此処から先は推し量る様な事になりますけれども、此処でも 2 行目の処に「その予算及び人員の大きさを考えると驚くべきに値する」と云う言い方をして頂いて、他の処にも書いてありますけども、「一方、此の人数でよくぞやってる」と云う、その、人数に対してかなり負荷が大きくなり過ぎて来ているんではないかと云う指摘は頂いて居ります。其の辺の事を考えて書いて頂けたんではないかと思います。

森尾：其れで、6 番の同じ件の 6 番ですけども、この指摘に対して例えばまあ、打上機、衛星運用、データシステムは他の部門を頼ったら良いんじゃないか[12]と云うご指摘に対して、何か具体的な手を打たれるんですか。

JAXA 井上：此れについては、あの、徐々に JAXA の中で、私共色々他の分で助けて貰うと言いますか、一緒にやると言いますか、其処は少しずつ進めて来て、其の効果は少しずつ出て来ていると思っています。

森尾：其れから 2 頁のリスクのとこですけども、此の評価は ISAS はリスクに対して怯えていると。もっとドンドンやりなさいって云う意味なんでしょうか。或いは失敗に対して寛容で無いよと仰ってるんでしょうか。

---

[11] 考え過ぎだろう。「効率」とか「オプティマム」を持ち出す事自体が「科学的な挑戦」と折り合い難いのではないか。

[12] 何となく「間違った、行き過ぎた解釈」をしている様に感じる。「優れた科学的成果は、優れた工学的成果に支えられている。」と発言された方が居た。森尾委員の発言は、「工学は JAXA の他の部門に任せ、科学に専心しろ」と云う考えの様に聞こえる。

JAXA 井上：いや、あの、私共は、勿論何でも良いから失敗して良いって事は無いので、確りやらなきゃいけないんですけども、私共は矢張り宇宙科学の一つの特徴は挑戦だと思いますので、ただ、あの、JAXA なり世の中の目には厳しい処がありますので、少し、此れは、「其処は寛容で居てね」と周りに言って下さっていると思うんですけども、あの、私共は、その、出来る限り間違いのない事にしようと思いつつ、しかし、失敗は恐れないと云う事だと思って居ります。

青江：あの、此の、意見要約の内のネ、一点あの、気になる処がありますのはネエ、あの、失敗との関連とでも言いましょうかですね、あのー、LUNAR-A のキャンセレーションに関連しましてですね、まあ、かなり厳しい事を仰ってられる方もいらっしゃる訳ですがですね、あの、要約の方で、「ミッションの選定から進め方まで、再解析する事が求められる。[13]」と云う風に仕切ってありましてね、此れはどう受けられますか。と申しますのはね、あのー、あの時に宇宙開発委員会で所謂、まあ、中止と云う事について、まあ、宜しかろうと斯う言った。但し、その、所謂プロジェクトの途中段階に於きましての一種の管理の仕方につきまして、宇宙開発委員会自身も仕組みを少し改めますよと、もう少しキチンとウォッチ出来る様な体制にしますよと。一方、その、JAXA に於きましてもですね、まあ、四半期毎の所謂報告を求めるとか、経営トップがキチンと見るとか、色んな事をして頂いた訳ですね。と云う事で、あのー、LUNAR-A の教訓と云うのを基に大分仕組みを直した訳ですね、と云う事があった上で、なお厳しい事を仰る方がいらっしゃるし、此処で、再度、「再解析する事が求められる」と云う事に相なって居るんでありますがですね、具体的にはどう云う風に、こう、受け止めて居られますかと云う事なんですがね。

JAXA 井上：此れについてはですね、あの、まあ、此処にはこう云う意見があったと云う事で書かせて頂いたんですけども、あの、実はこう云う意見を出された委員の方には我々、あの、十分ご説明をして、で、今仰った様な此の間の色んなプロジェクトが踏まれたことを十分にはご認識頂いて無かった段階で此の意見を書いて頂いていました。で、その後、ご理解は頂いたと思っています。但し、私共として、最終的に今の様な方に、斯う云う事をチャンとやりましたと云う事を報告と云う事で、形で渡していなかった事は我々が未だ至らなかった事だと思って居りまして、最終的には宇宙科学研究本部として報告って云うのを纏めないといけないと思っています。ただ、今、あの、最終的にペネトレータの最終的な処が未だチャンとけりが付いて居りませんので、其処を見た上で最終的な報告として纏めたいと思います。

青江：ご免なさい。あのー、ペネトレータのですね、今あの、まあ、所謂基礎的な研究は継続しましょうよと言って、其の分に

---

[13] 「意見、勧告」の「5. その他」の箇条書きの 4 番目である。外部評価委員会の結論の要約であると誤解されたようであるが、此れは評価委員の中のお一人の意見であり、LUNAR-A 計画がキャンセルされた時の経緯をご存じなかった人の意見であった事が、後の井上理事の回答に示される事になる。

つきましてはまあ生きて居ると、継続してる訳ですね。で、其れが何らかの形で整理が付いた時点で LUNAR-A の頭からしっぽ迄をもう一回見てみましょうと、プロセスを。

JAXA 井上：あの、もう此れまでのプロセスで、宇宙開発委員会等に我々として資料をお出ししましたし、資料は揃っていると思っています。あの、其処を報告として、ペネトレータの最後のけりをつける処を含めて、経過報告として書き上げると云う作業をしなきゃいけないと思っています。其れが未だ出来て居ないと云う事です。もう、過程としては済ませて来た事をキチッと報告するだけだとは思って居ります。

青江：あの、今、一寸関心がありましたのはね、ペネトレータ自身の問題もさることながら、一種あそこから、…あの…一つのポイントは、所謂プロジェクトの途中段階に於ける管理の仕方の問題と云う処であった訳ですね、大きな問題って云うのは。其の点についてはもう済んで居ると。

JAXA 井上：あの、私共は、

青江：取敢えず、ええと、何か新しい事を考えねばならないとか、そう云った風な事ではなくて、先ずは此の、今、あの時直した仕組みで以てずっとやってみてからの話だと言う整理で宜しい訳ですね。

JAXA 井上：はい、全くその通りです。宇宙科学研究本部の一番最後の報告を皆さんに出してると云う事をしていなかったと云う事を、チャンとやらなきゃいけないと云う事を申し上げただけで、新しい事を付け加えることでは、そう云う意味ではありません。

青江：云うことですよね。そうなのかなと此れは思っとるんです。

池上：あ、あ、あの済みません。追加質問、その、LUNAR-A についてはどの位議論されたんですか。つまり、あの、多分ですね、外から見てて関心あると思うんですよ。で、あの失敗から何を学んだかって云う風な、当然議論出てくると思うんです。若し一流の研究者がホントに此れキョウカイ（？）に入ってくとすれば。其の辺はどうだったんですか。かなり議論になりました。

JAXA 井上：はい、あのー、まあ、かなり厳しい語意見も頂きまして、で、あの、我々としては、宇宙開発委員会の評価頂いた事等も含めて、どう云う考え方で整理をして、で、其れをどう云う感じに新しく、今、反映しつつあるかと云う事をご説明いたしました。

池上：で、因みに LLUNAR-A についてはあれですか、例えばあのー、論文、サイテーション・インデックス等々、例の評価って云うのは出来る段階までは行ったんですか。殆ど無かったんですか。

JAXA 井上：ええと、LUNAR-A として、それはあの、此方にもあの、評価の時にもお出ししましたけども、

池上：いやいや別に、あの、宇宙開発委員会を責めてるって話じゃなくて、其方でどうですかって話。

JAXA 井上：ええと、今回の評価の中に LUNAR-A に関連した論文の分を切り出して、何か資料として出したかと云うことですか？あ、其れについての特別の議論は無かったです。

池上：で、一寸私が気になるのはですね、要するにサイエンスの

部分をどうするかって云うことなんですけどネ、或いは学術研究と云うムニャムニャ。で、ご案内の通り、もう 1980 年代位から装置にサイエンスの研究が依存すると云う時代に入ってしまって、昔の様に好奇心ドゥリブンだけでは行かないよって云う状況に入っちゃった訳ですね。で、其れはもう、色んな所でもう既に議論してる話なんですけどね。で、そう云う点から言いますと ISAS の場合非常に装置依存度が非常に高い。一人一人のキュオリオリティ其のもので中々やれないフウ（？）が有るわけでしょ。で、その辺はネエ、どうしたら良いかって云う様な議論があって、多分具体的な議論はですね、学術研究とプロジェクト研究をどう云う様に整合さしてくかって云う処に議論が行なわれたかって思う[14]んですが、如何にですね。もう一つ言いますとですね、ISAS の方、私なんか色々聞いてますと、どうも科学の部分が弱い。工学は割と強い。ですから装置依存度が高い、従って装置について色々やらなきゃいけないって云うんで、工学者が色々物を言うってのは分かるんだけれど、正しく、主張が弱いなって云う風に、私、日頃感じてますんでね、其れをムニャムニャ。

JAXA 井上：ええと、あの、一寸、誤解をしておられるような気がするんですけども、あの、ええ、例えば天文学の最前線を切り拓いていく、その、ノーベル賞級と云う様なものも、あれは新しい装置を導入したことで、今まで思ってもいなかった事が発見された。其れがドライブしてる訳ですね。で今、特に今、あの、非常に根本的な物理法則みたいなものを、地上で実験するなんて事は非常に難しい時代になってますから。まあ、あの、加速器の実験は勿論御座いますけども、

池上：誤解と言いますが、其れは十分承知しております[15]。

JAXA 井上：そう云う意味では観測装置がドライブしてフロンティアを切り拓いてる、新しい装置を導入する事が新しい学問を切り開いてると云う、其の点については何も問題点が指摘されている事は無いと思いますけど、研究者の間で。

池上：ああ、そうですか。つまり、金が来たら其れに見合うだけの研究をするって言い方になっちゃう訳？　来なかったら自分は研究しない。

JAXA 井上：ええと、あの、新しい装置を導入するために、予算を掛けなきゃいけないって事は其の通りですけども、其の限られた予算の中で、一応精一杯の工夫をして、一番良いものを作ってくと云う意味では仰る通りです。

池上：でも金が無くてもね、研究者って云うのは研究するって云う

---

[14] 井上理事と青江委員の話合は、NASDA と云うトップダウン型の組織と ISAS と云うボトムアップ型の組織が融合して、旧 ISAS のメンバーに負担が掛かり過ぎている事に関するものであるが、池上委員は宇宙科学研究本部の中で其れが起こっているものと勘違いされている様である。実際には「探査構想」が出てきて初めて其れが発生したが、JAXA では宇宙科学研究本部の外に「探査グループ」を置くことで、その種の混乱を防ごうと考えている。

[15] 話の前段として肯定的な話をしているのに、口を挟む事はないと思う。

んじゃないの。金が無くても研究する。

JAXA 井上：金が無くても研究できる部分で、研究は勿論はやりますけれども、

池上：で、若し JAXA、じゃなくて ISAS が駄目であればアメリカに行ってしまうとかネ、其れがキュリオリティドゥリブンである研究者じゃないんですか。

JAXA 井上：ええと。

池上：一寸ね、変な議論になっちゃったんですけれども、

JAXA 井上：ええ、仰ってること、

池上：で、例えばですね、例えばね、

JAXA 井上：仰ってる処が、一寸、

池上：例えばね、いやいや、例えば我々、その、月を色々やろうとした場合に、サイエンスとして是非斯う云う様な話をしたいと云うなのは余り聞かなかった[16]。私は言ってくれとしつこく言ったけれど。で、具体的には、あの、移動装置を作りましょうとか、或いは2週間とか3週間とか泊まる様な家を作りましょうとかって云う話があった。あれは、トゥールの話であって、寧ろ其れを使って何をやるかって云う様な話がもっと上がって来れば良いと思ったんだけど、中々其れが聞けなかった。云う事がバックに有ります。

JAXA 井上：ええと、其処は、あの、先日の月探査のワーキンググループが目的とする処は、其の議論では無かったんだと私は認識しています。あれは、宇宙科学の議論とは別に、新しい月探査と云うものを、まあ科学の中に入るでしょうけれども、新しい、科学だけではない新しい柱をどう立てて、考えて行きますかと云う事について、ご審議頂いた[17]と云う理解しています。

青江：其の通りだと私も思っております。

池上：唯ね、アメリカなんかの場合に月をやるって言った途端に、科学者が色んな学会で以って色んな提案をして来る訳ですよね。で、其れが何故。

青江：だから、其の月での科学の話はね、プロジェクトを成熟化させる過程でキチンとやりましょうと、プロジェクトをゴーを掛ける前にはキチンとやりましょうと云う事であった筈ですよ。あのワーキンググループの段階では。

池上：いやいや、其れはだからね、僕はもっと自信を持って進めて行きたい。で、此れ日本、実は日本全体の問題なんです。総合科学技術会議の評価委員会議（？）かなんかでもそうですよね。あの、さっき言われたように非常に出口を狭くし

---

16 話をすり替えようとしているとしか感じられない。

17 「月探査 WG」は鶴田座長、その上位の「計画部会」は青江部会長が仕切った。その青江委員が仰るように、「科学目的でボトムアップで取り組んできた中に、『月探査』と云うトップダウンのプロジェクトが加わるので、其の取組にどう臨めば良いのか」を議論したのである。其の中の一項目に、「SEI に参加する各国の意向に係わらず、日本としては科学的成果の追及を重視する」と云う様な事が含まれていたと思う。WG の各特別委員は、「月探査」によって従来からの科学観測予算が押しやられてしまう事を心配していた。

ようって云う発想で、今、動いている。で、其れはあくまでも科学技術研究であって、学術研究について言いますとネ、そう云う事言ってない訳ですよ。学術研究って云うのは、少なくとも文科省の定義によりますと、テーマの選定について自由度が有る。独創性を発揮しろ。科学技術研究の場合ですと或る程度目標を絞るって事が起きる。で、その、所謂学術研究ってのは今落ちて来ると云う風に言われてるんだけど、其処をもっと積極的に、その、ISAS も力を入れて欲しいって云う事を言いたいのが私のメッセージ[18]なんですがね。

JAXA 井上：ええ、あの、其処は全く、我々もそう云う方向で考えて居ります。

池上：其れは是非お願いします。で、もう一つ気になるのはね、3 頁の処で、理学的成果で 3 番目の処に、論文の生産性はかなり高いと。で、サイテーションインデックス、此れトムソンか何かんだと思うんですが、評価分野毎の世界平均に達して居りと云うのはね、一寸寂しい表現ですね。

青江：「凌駕する」じゃ無いってですか。

池上：ええ。

JAXA 井上：あのー。

池上：反省をすべき事項なのか、どうなんですか此れ。

JAXA 井上：あの、私共が、エー、あの、宇宙科学と云う切出しで、例えば物理とか色んな切り方が有ります。あの、宇宙科学と云う部分で切出した時には、まあ、此処で我々が提示したのは、あの、サイテーション、エー、宇宙科学研究所、日本の宇宙科学に与えられている予算規模と、例えば NASA に与えられている予算規模と比べて、其処でサイテーションの高い論文がどれだけ出てるかと云う事を比べると、あのー、我々の処は NASA 以上の成果を出しています。

池上：フン、フンフン、あそう云う。

JAXA 井上：比較の仕方が難しい処です。

誰か：あ、時間が。

池上：あ、あ、あ、またじゃあ。

JAXA 井上：はい、其処についてはまた。

池上：はい、はい、はい。

松尾：宜しゅう御座いますか。私としては無理に自制心を発揮[19]して、論戦には参加しなかったです。

(笑い声)

松尾：今日は此処迄で御座いますが、片岡さん

---

[18] 旧 ISAS をそっくり引き継いだ宇宙科学研究本部は、正にその様に考えていると思う。だから、「探査グループ」を別に設立したと考える。

[19] 小職がコメントするのは礼を欠くが、元宇宙研所長で現宇宙開発委員長は、不公平な事は微塵も避けようと、随分無理をされたと思う。